

週報 No.2311号

## 本日の例会（第2312回） 平成29年11月28日(火)

### 予定行事



#### ★皆出席表彰

小山 登 会員（12年） 弓田 浩司 会員（7年）

#### ★米山記念奨学会への寄附に対する表彰（2016年度上期）

- |            |          |         |
|------------|----------|---------|
| ・第8回 米山功労者 | 吉市 仁 会員  | 感謝状     |
| ・第6回 米山功労者 | 尾下 千明 会員 | 感謝状     |
| ・第5回 米山功労者 | 杉本 侃 会員  | 感謝状     |
| ・第5回 米山功労者 | 勝亦 良彰 会員 | 感謝状     |
| ・第1回 米山功労者 | 菅原 正明 会員 | 感謝状とケース |

#### ★卓話 テーマ：クラブ討論会⑤「円卓会議」

卓話者：小嶋 敦 会長

### 米山奨学会について

財団委員会 委員長 田中 潤治



10月17日、第2660地区片山ガバナーの公式訪問があり、彼の卓話の中でロータリーは奉仕を通じて、地域社会と世界に変化をもたらしたいと願う人が集まった集団の組織であり、それを可能にするために各クラブが、独自の奉仕の方法を選択することが重要であることを強調されました。そして本年度のクラブの年次寄付目標を次の通りに決め、西北ロータリーにも目標達成を呼びかけ卓話が終わりました。

ロータリー財団寄付として一名あたり200ドル（ポリオを含む）ベネファクターに一名の登録、米山奨学会として30,000円。

以前から当クラブの会員間で米山奨学会を受領する学生の質について、なぜあの国の人にとってなぜ金持ちの学生にとか、いろいろな苦言があり、国籍、留学生の経済状態、などを慎重に調査をしてから奨学会を与えるべきとの声がおこり、積極的に寄付することに躊躇する会員が増える傾向にある様です。

(裏面につづく)

次回例会のお知らせ [第2313回・平成29年12月5日(火)]

#### ★お誕生日のお祝い

#### ★卓話予定

- ・テーマ：「おもしろ川柳」
- ・卓話者：瀬田川昭俊 会員

★年次総会 13:30～ 例会場（全会員）

★定例理事会⑥ 13:50～14:50 事務局（理事会構成メンバー）

#### ★お食事は松花堂弁当です。

★例会場 4F 真珠の間

前回例会（第2311回・11月21日（火））の報告

# 夜例会 2017.11.21 ★☆

18時より大阪丸ビルにて



小嶋会長 挨拶

田中会員による乾杯



## (表面のつづき)

芦谷会報委員長から問題解決に役立つかもしれないでの財団委員長の意見を週報に掲載したいので原稿を提出して欲しいとの依頼があり、少し抵抗を試みましたが、芦谷委員長の真剣な眼差しに応えるべきとの思いから原稿を提出することに致しました、ご理解が得られれば幸いです。

世界の国々ではグローバル化されて行く国際社会に対応するための方策として、多くの国々は自国に留学生を受け入れ、それぞれの国の文化を理解させようとしています。日本政府も可能な限り多くの留学生を受け入れ、相互の理解を深めるために近隣の国々からの留学生を増やす計画です。すでに中国からは正規に留学生として日本に滞在する学生数は130,000人、大阪大学一だけでも800人、関西には4,000人以上の学生が眞面目に日本の教育を受け、学位を取り、国際人として活躍できる時に期待をしています。

しかし、これら多くの留学生の全てが、必ずしも日本のために将来貢献してくれるとは限らないのが現状です。

そこでロータリークラブでは、留学生の中から将来日本及び世界に変化をもたらし、地球上に平和を、そして全人類に貢献できる能力を持つ留学生を如何にして多く生み出して行くかを真剣に考え、行動を起こすべき重要な時なのです。唯、奨学金を提供するだけではなく、彼らを眞の友人として扱い、信頼関係を作り、眞実を学ぶ機会を与え、育成するための努力を惜しむことなく奉仕を続けることが大切です。留学生の経済状況ではなく、留学生の質と能力、そして将来性に投資を行うべきかと思います。彼等は母国に帰国した後は必ずリーダーとして色々な分野で活躍することになります。

(つづく)